

コミュニティサイクルの取組等について

国土交通省 都市局 街路交通施設課
企画専門官 中西 賢也

平成30年3月

1. コミュニティサイクルの取組動向

2. 事業の整備効果

3. 契約方法・契約更新に関する取り組み

4. 新たなシステムの動向

1. コミュニティサイクルの取組動向

2. 事業の整備効果

3. 契約方法・契約更新に関する取り組み

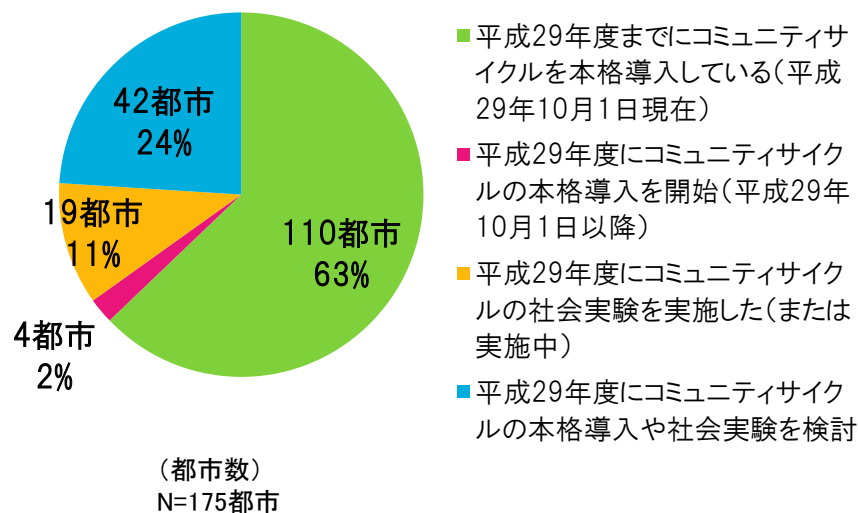
4. 新たなシステムの動向

1. コミュニティサイクルの取組動向

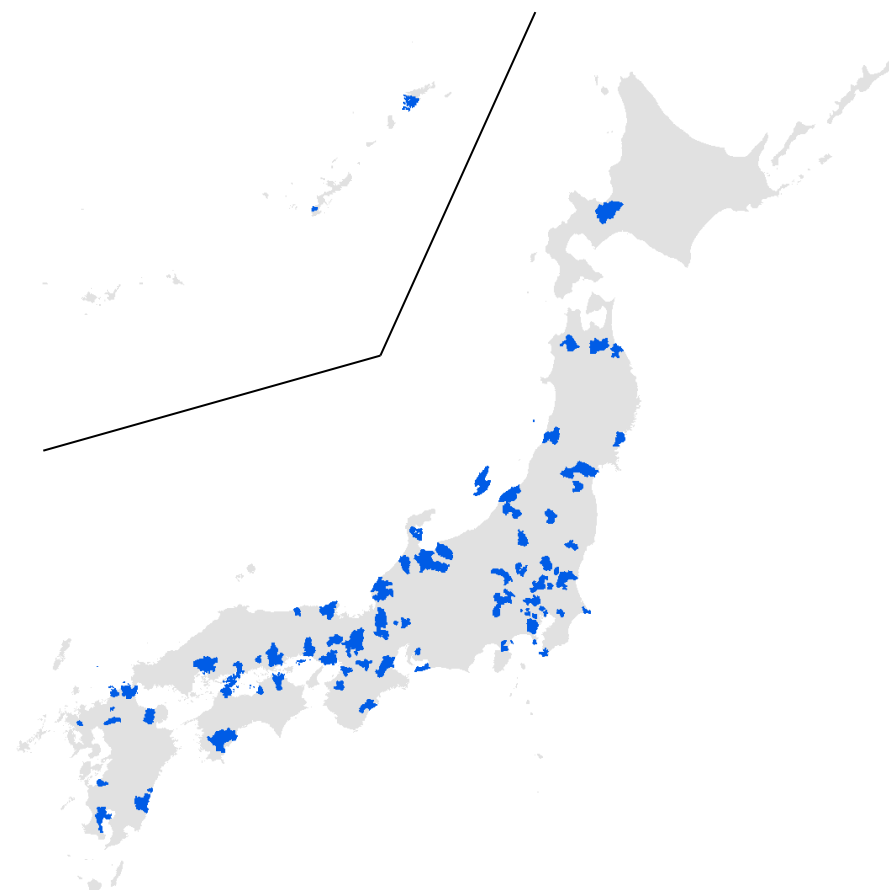
①-1コミュニティサイクルの実施状況

- アンケートにより全国の自治体のコミュニティサイクルの取組状況を調査
- コミュニティサイクルの実施都市は110都市。（平成29年10月1日時点）

【コミュニティサイクル実施状況】



【コミュニティサイクルの実施都市】



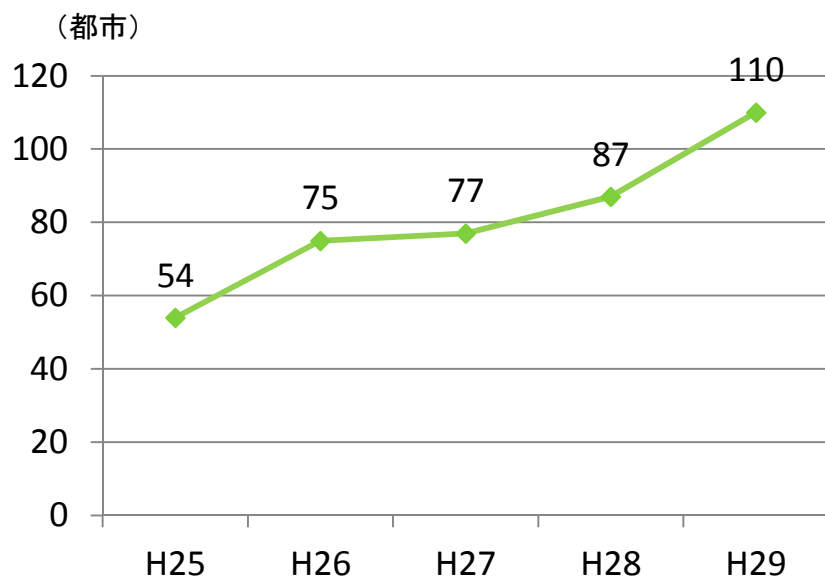
※H29年10月1日時点
 ※アンケート回答自治体のうち、本格導入を図示
 ※民設民営の取組については、回答があった自治体を図示

1. コミュニティサイクルの取組動向

②コミュニティサイクルの実施と指数の推移と導入目的

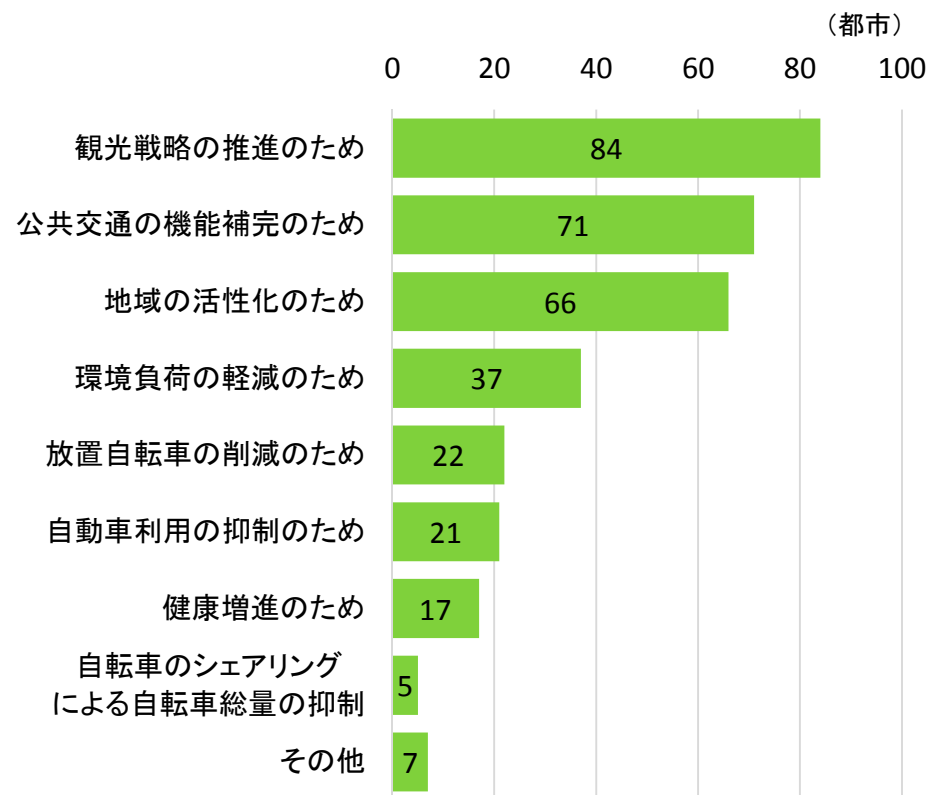
- コミュニティサイクルの実施都市数は増加傾向。
- 導入目的は「観光推進」や「公共交通補完」、「地域活性化」といった項目が多い。

【コミュニティサイクルの実施都市数の推移】



※H29年10月1日時点
 ※アンケート回答自治体のうち、本格導入をカウント
 ※民設民営の取組については、回答があった自治体名称をカウント

【コミュニティサイクル導入目的】



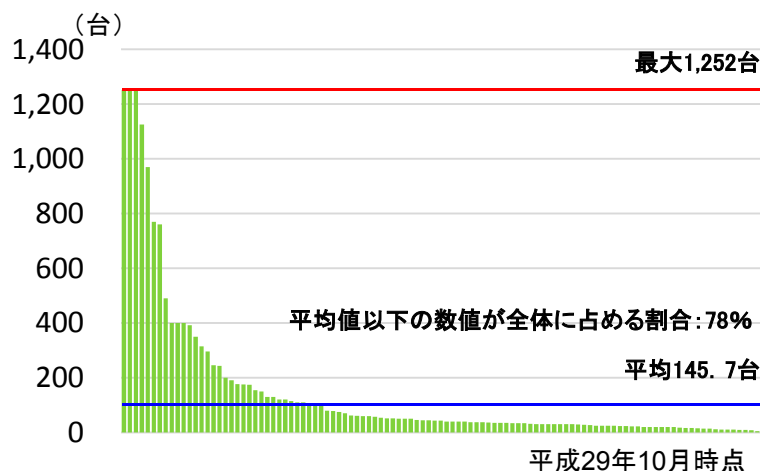
回答数330(110都市)
 ※複数回答あり

1. コミュニティサイクルの取組動向

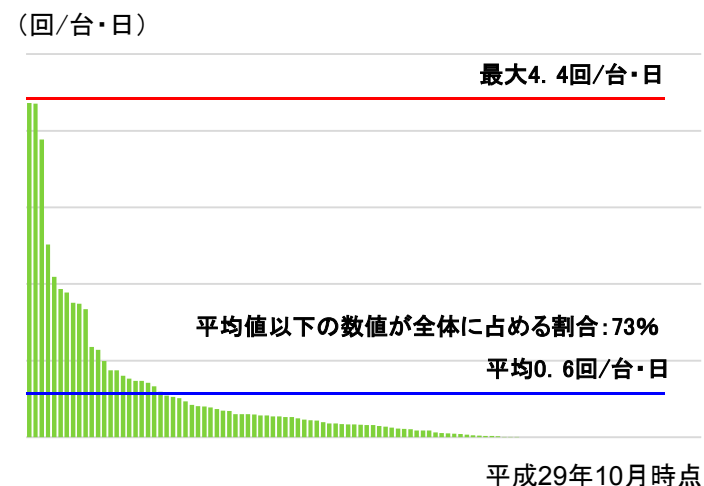
③コミュニティサイクルの実施規模

- 自転車台数・ポート数などにおいて、比較的大規模に実施されている都市もみられるが、平均的な規模は小さい。
- 10箇所以上ポートを設置している都市数は増加傾向であったが、平成27年から28年にかけて横ばい。

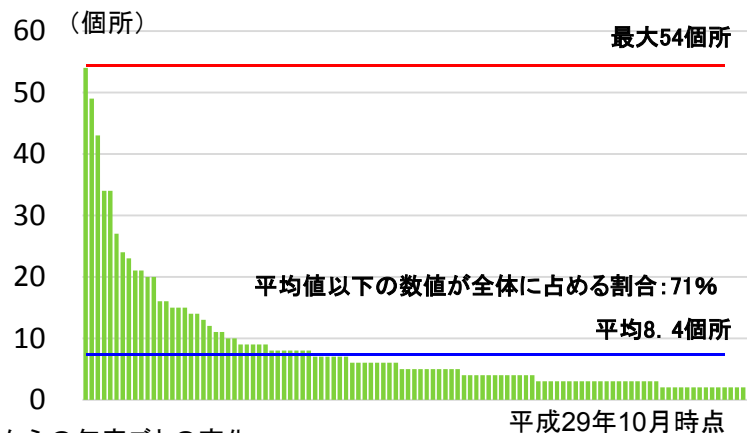
【自転車台数】



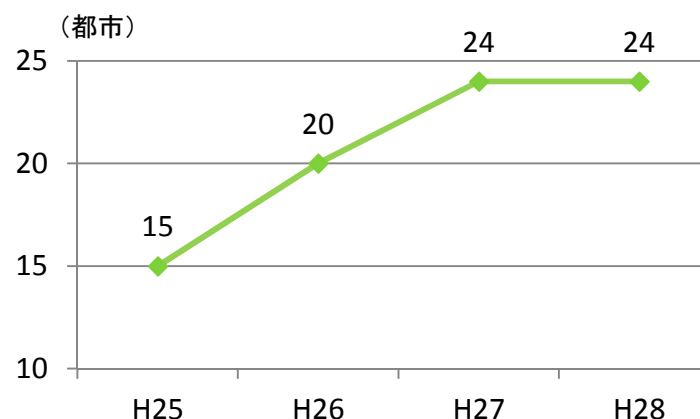
【回転率】



【ポート数】



【10箇所以上ポートを設置している都市数】



【参考】H25からの年度ごとの変化

【H25】8.2箇所 → 【H26】8.8箇所 → 【H27】9.9箇所 → 【H28】8.4箇所

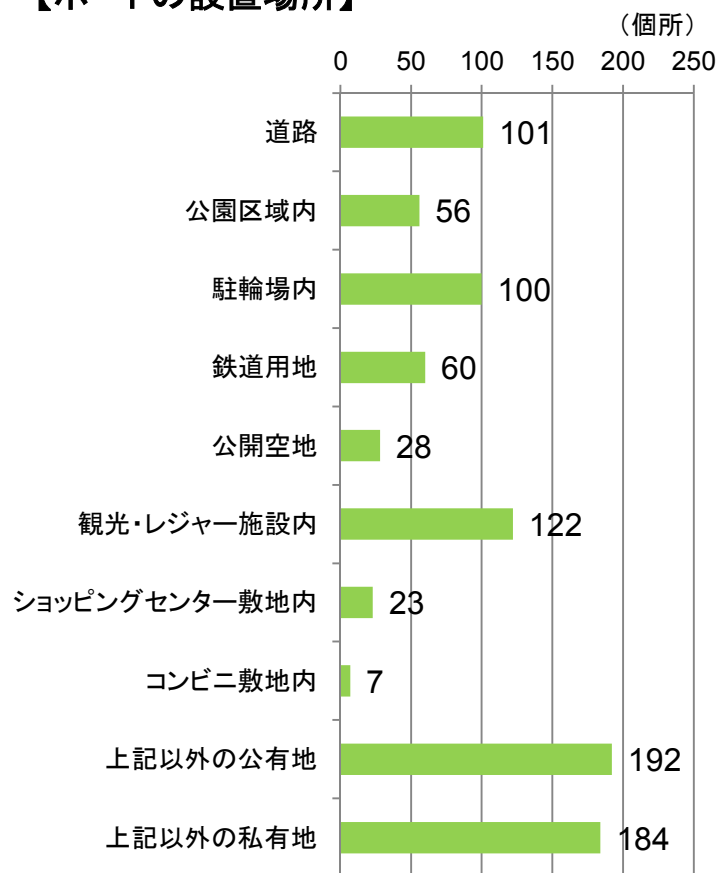
各年次の数値は各年度末(3/31)時点

1. コミュニティサイクルの取組動向

④ポートの設置個所

- ▶ポートは道路や観光施設等様々な場所に設置されている。
- ▶一方、駅周辺へのポート設置状況は海外と比較すると、国内は少ない状況である。

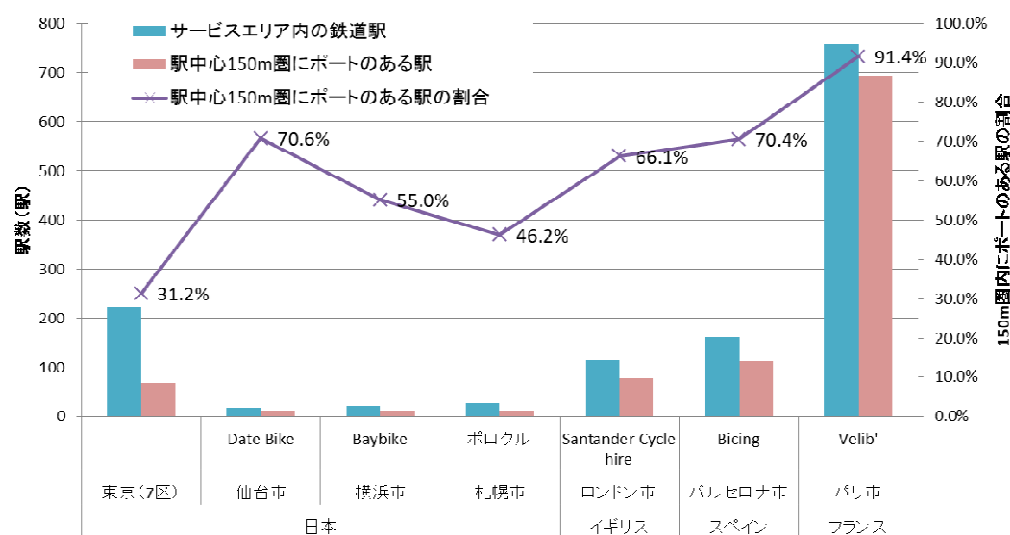
【ポートの設置場所】



上記以外の公有地の例)：市役所・公民館・公営施設等
 上記以外の私有地の例)：宿泊施設(ホテル)・駐車場・借地

110都市
 N=873箇所
 ※複数回答あり

【駅周辺ポートの設置状況】



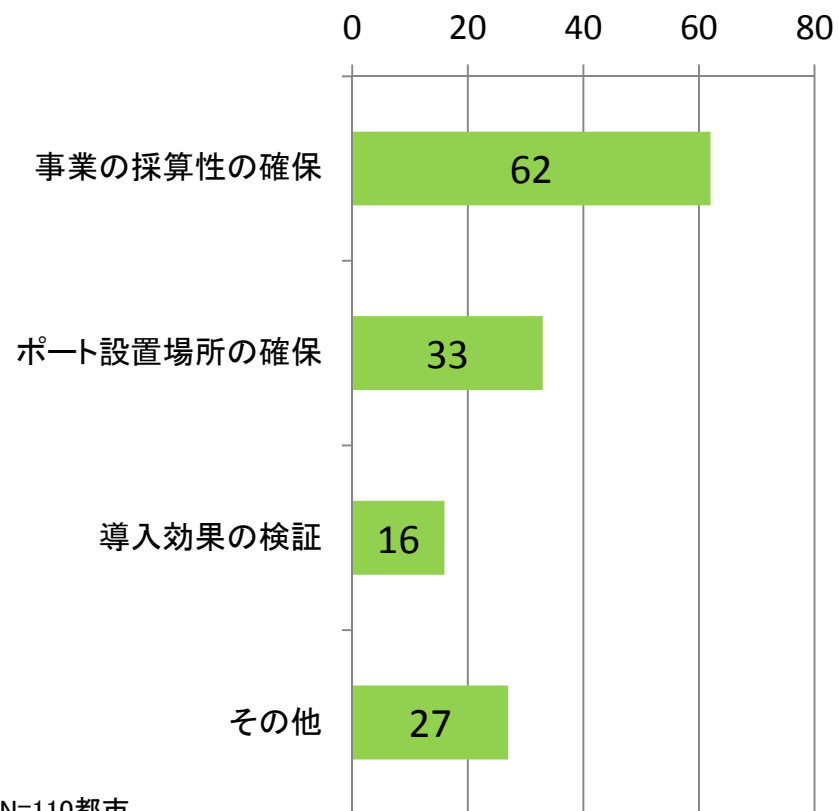
地下鉄駅に近接した路上のポート(左:ロンドン 右:パリ)

1. コミュニティサイクルの取組動向

⑤課題と今後の展開

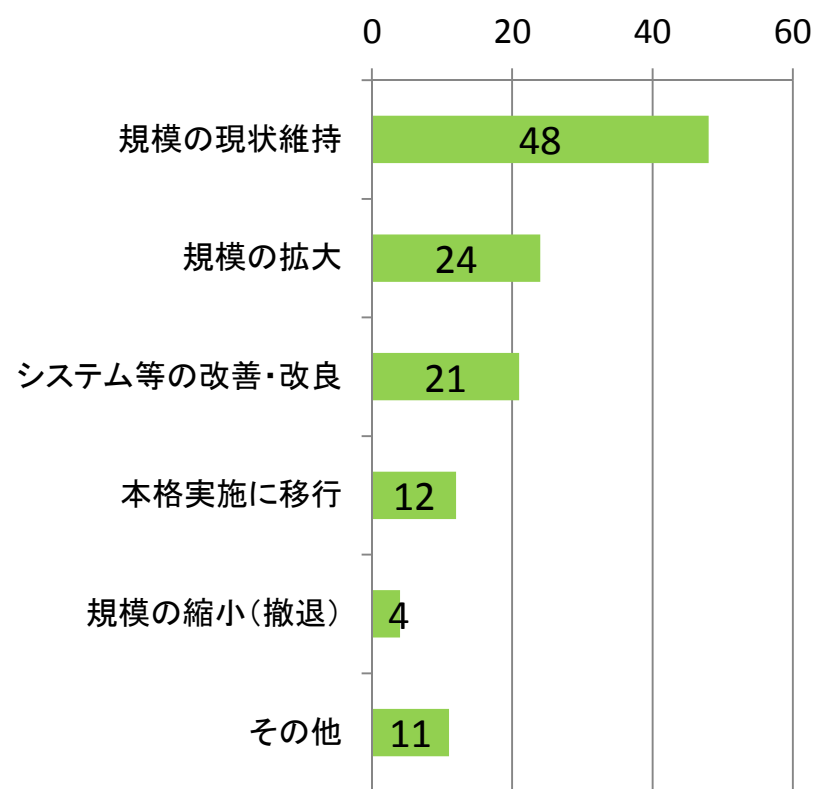
- コミュニティサイクル実施上の課題としては、事業採算性の確保が最も多く、全体の約6割が課題と認識している。
- 多くの都市で現状の規模を維持ないしは拡大を企図している。

【コミュニティサイクルの課題】



N=110都市
※複数回答あり

【今後の展開】



N=110都市
※複数回答あり

1. コミュニティサイクルの取組動向

コミュニティサイクルが国内で導入され始めて約10年が経過。



約10年でコミュニティサイクルの導入都市は100都市以上(平成29年10月時点110都市)。



- コミュニティサイクル導入効果を評価する必要がある、導入効果の実施状況の把握が必要。
- 約10年経過したことで契約期間満了を迎える都市も多数あり、契約期間更新に向けた各都市の取組状況の把握が必要。

1. コミュニティサイクルの取組動向

2. 事業の整備効果

3. 契約方法・契約更新に関する取り組み

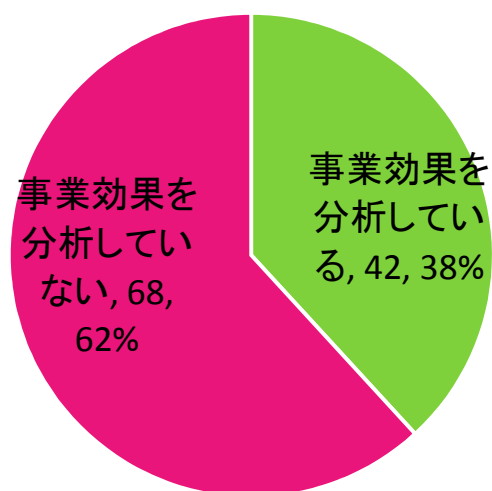
4. 新たなシステムの動向

2. 事業の整備効果

①整備効果の分析

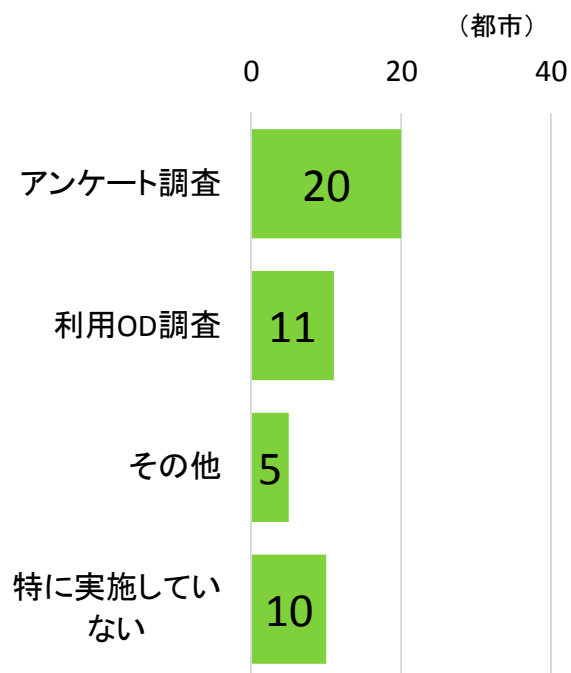
- 整備効果の分析を実施している都市は全体の約4割。
- 整備効果の把握方法はアンケート調査が多い。
- 整備効果の項目は、利用者の満足度を分析している都市が多い。次いで、観光戦略の推進について分析している都市が多い。

【整備効果の分析の有無】



N=110

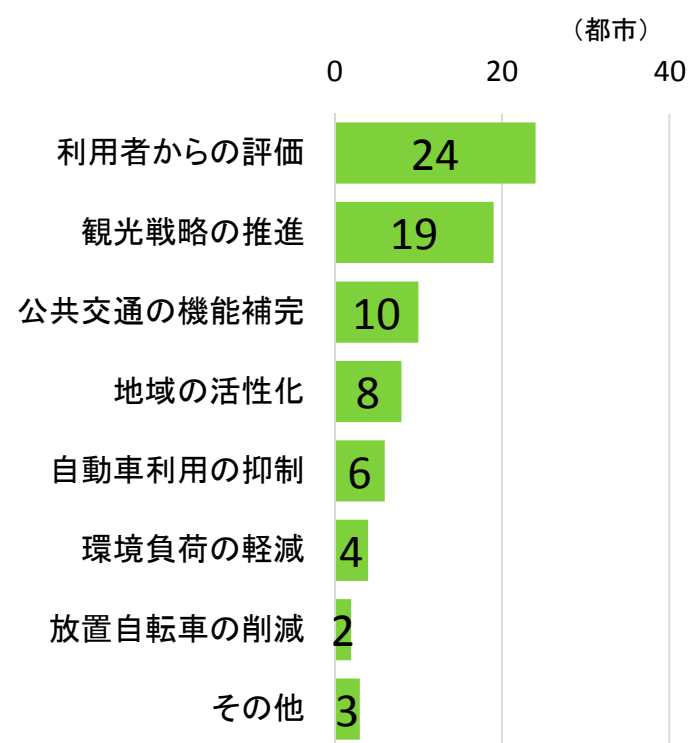
【整備効果の把握方法】



N=42

※複数回答あり

【整備効果の具体的な分析項目】



N=42

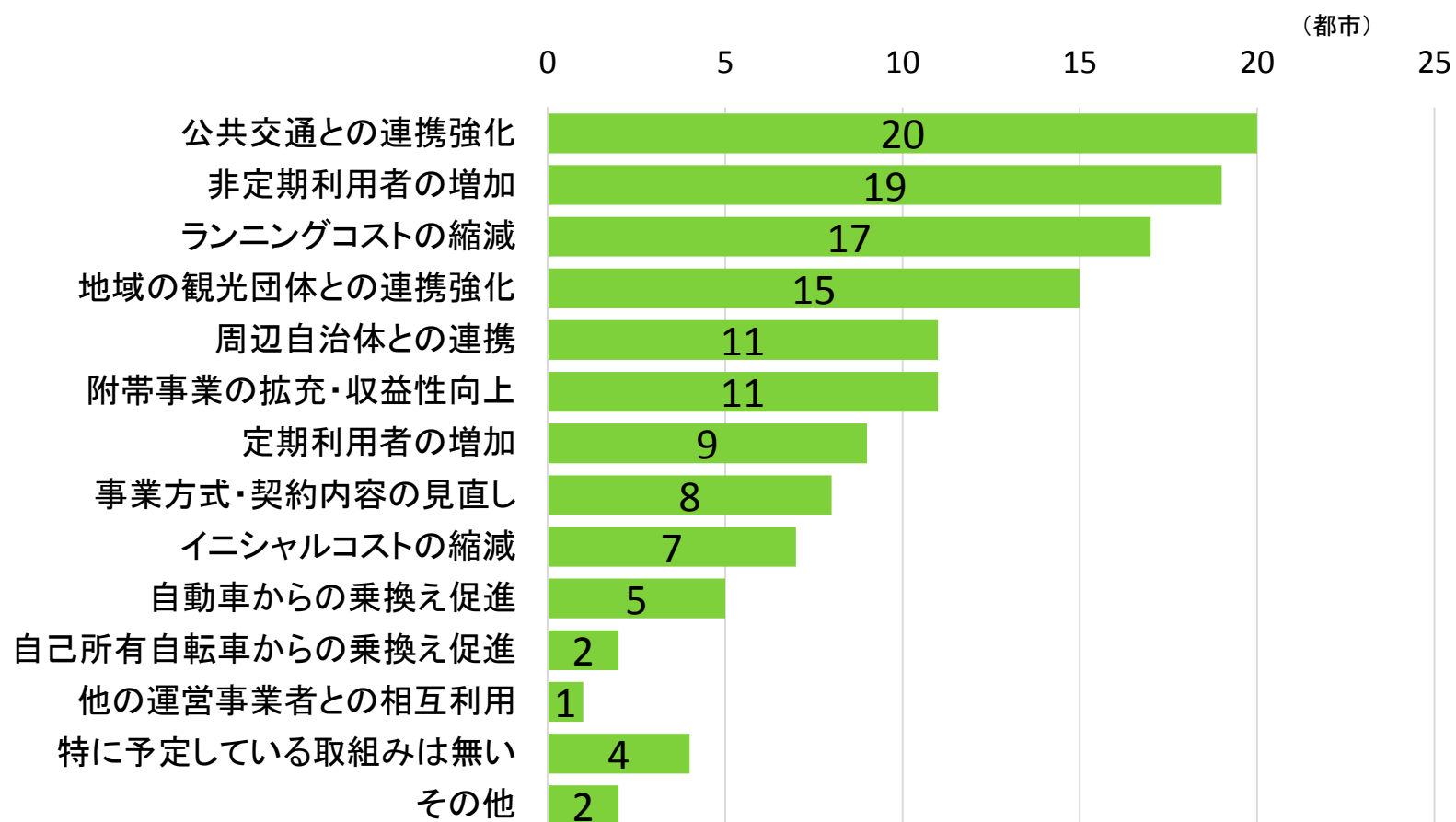
※複数回答あり

2. 事業の整備効果

② 今後整備効果を把握したい項目

- 整備効果の分析を実施している都市のうち、今後、整備効果を把握したい項目は、「公共交通との連携強化」や「非定期利用者の増加」に関する項目が多い。

【今後整備効果を把握したい項目(分析実施都市)】



N=42

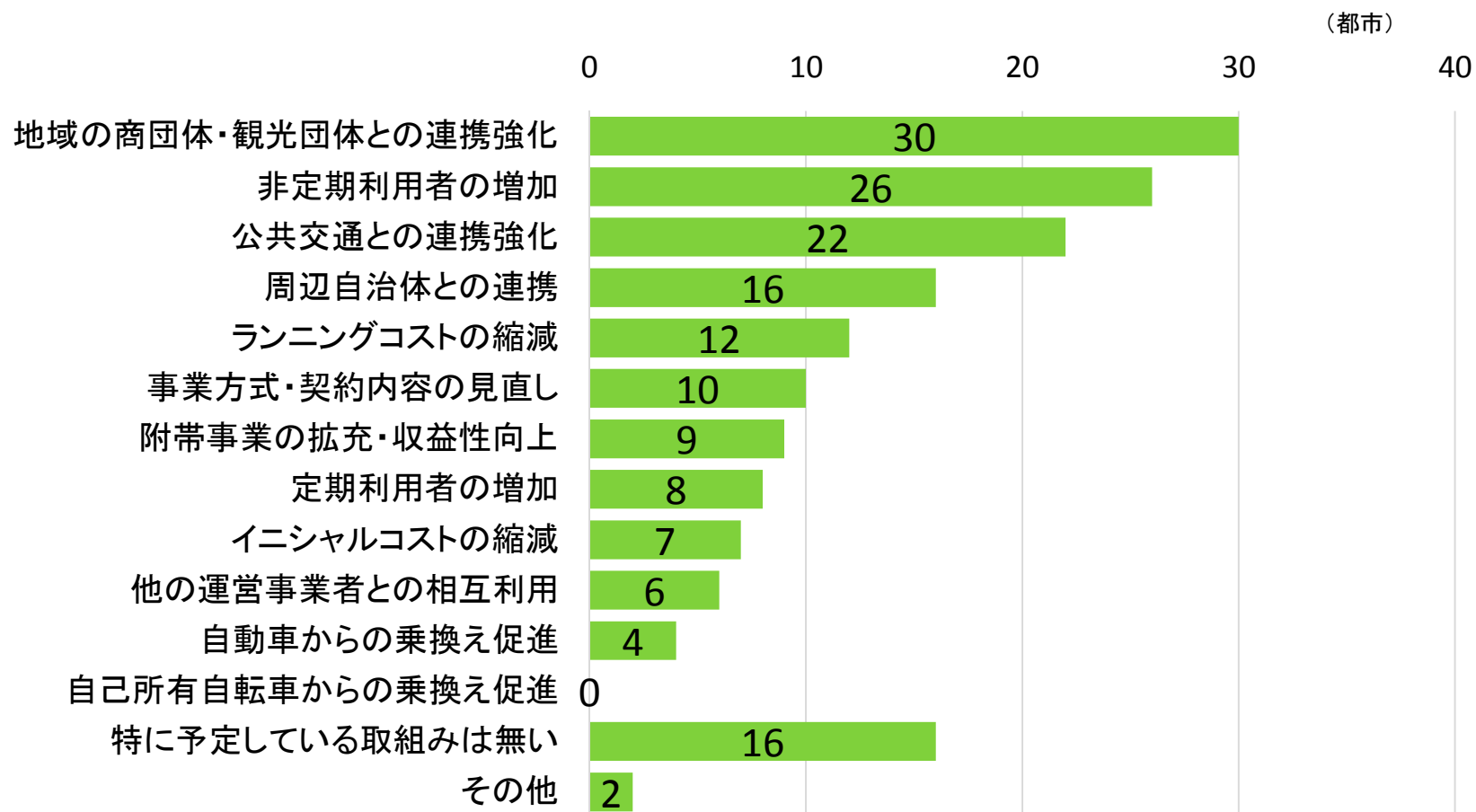
※複数回答あり

2. 事業の整備効果

② 今後整備効果を把握したい項目

- 整備効果の分析を実施していない都市のうち、今後、整備効果を把握したい項目は「地域の商団体・観光団体との連携強化」や「非定期利用者の増加」の項目についての回答が多い。

【今後整備効果を把握したい項目(分析未実施都市)】



N=68

※複数回答あり

2. 事業の整備効果

③整備効果把握とその活用事例

▶ 札幌市のポロクルでは、毎年のレポートとして事業の効果を含むPR冊子を制作。

あなたとつくるやさしいまち **porocle**
認定NPO法人 ポロクル

2016年度 事業レポート

自転車共同利用サービス(サイクルシェアリング)事業

【ポロクル 2016 DATA】

- 営業期間：2016/4/25～10/31
- 営業時間：7:30～21:00
- ポート：41カ所
- ビット：9カ所
- 自転車：350台
- 登録件数：一般/10,620件 法人/754件
- 観光プラン販売枚数：3,659枚
- 年間総利用回数：85,763回
- 1日最大利用回数：797回

事業化6年目を迎えた2016シーズン、一般・法人を合わせた会員登録件数は、合計で11,300件を超えました。また、観光利用も含めた利用回数も堅調に推移し、事業開始からの累計利用回数は60万回を超えました。

観光向けのプランとしては、1日バスに加え短時間だけの利用を望む声に応えた15時バスの販売を開始。また、要望の多かった英語での案内などにも取り組んだ結果、シーズン中の販売枚数が昨年比1.6倍の3,659枚となりました。

■ 会員登録数と累計利用回数の変化

年	会員登録数(人)	累計利用回数(回)
2011年	45,781	2,140
2012年	182,684	8,026
2013年	310,464	9,537
2014年	430,638	10,533
2015年	515,675	11,374
2016年	681,418	12,000

▲ 専用カウンターには英語対応可能なスタッフが常駐 ▲ 専用カウンター下は観光案内所と連携

PICK UP ▶▶▶ 観光プランの売り上げが大きく伸びました!

■ 観光プラン販売枚数と販売窓口数の変化

年	観光プラン販売枚数(枚)	販売窓口数(カ所)
2012年	415	13
2013年	915	21
2014年	1,860	35
2015年	2,736	48
2016年	3,659	61

2015年比 1.6倍!

■ 観光プラン利用者居住地

居住地	枚数	割合
札幌市	3,659	100%

■ 海外利用ランキング

国	枚数	割合
韓国	563	15%
台湾	306	8%
中国	231	6%
香港	111	3%
アメリカ	109	3%
タイ	97	3%
その他	459	13%

ホテルや観光案内所など、昨シーズンより7カ所多い35カ所で1日バスを販売。ポロクルカウンター限定で新たに販売した15時バスは、売り上げ全体の12%を占め、「利用しやすかった」と感想をいただくなど好評でした。

また、今シーズンから外国人への貸し出しを開始。英語に翻訳したサイクリングマップも作成しました。国内外からの注目も高く、たくさんのメディアやブログで紹介された結果、海外のお客様の利用は全体の15%に達しました。

ポロクルカウンター限定販売 夕方から少しだけ乗りたい方におく!

15時バス 540 利用可能時間 15:00～21:00 **新登場**

▲ お客様のニーズに応えて15時バスを販売

サイクリングマップの英語版を作成し、大変好評でした

2. 事業の整備効果

③整備効果把握とその活用事例

▶ 千代田区のちよくるでは、実証実験による効果検証結果をホームページで公表。



千代田区 Chiyoda City

文字の大きさ・色を変えるには | 音声読み上げ | English | 中文 | 白黒

千代田区コールセンター 03-3264-3910

年中無休 朝8時から夜9時まで

ホーム 暮らし・手続き 健康・福祉 子育て・教育 文化・スポーツ まちづくり・環境 しごと・産業 区政

ホーム > 区政 > 広報 > プレスリリース > 平成28年プレスリリース > 平成28年6月プレスリリース > 平成28年6月7日 "ちよくる"開始から1年間の利用分析結果を公開しました～利用の8割以上から好評価、課題はポートの配置場所と数～

更新日：2017年12月5日

平成28年6月プレスリリース

○平成28年6月30日 千代田図書館&美業之日本社連携展示「原爆から蘇ったヒロシマの木」写真展

○平成28年6月29日 商店街に20菓の総どうろを展示 第13回神田・秋田連夜七夕絵どうろまつり

○平成28年6月29日 高瀬醫院生誕120年記念「画生（まほん）高瀬賢治」を掲載

○平成28年6月29日 国指定常陸橋門跡・常陸橋跡修復工事現場見学会取材のご案内

○平成28年6月28日 大規模建築物の耐震にあわせて住環境整備推進計画を施行～住宅団地「豊の確保」から「住環境の向上」へ大膽に見直し～

○平成28年6月23日 第2回区議会定例会 閉会

○平成28年6月22日 千代田小学校の地盤が揺いずバスケットボールに挑戦

○平成28年6月21日 次世代育成支援（区独自事業）に支援協力が創出

○平成28年6月16日 千代田図書館と常陸町商店の連携展示「しよらん」の人生とVOL.82 人々の人生ドラマ～絆伝・ノンフィクション・語り～

○平成28年6月15日 大学生

平成28年6月7日 "ちよくる"開始から1年間の利用分析結果を公開しました～利用の8割以上から好評価、課題はポートの配置場所と数～

このページは、上記日付によるプレスリリース（報道機関への情報提供）を掲載したものです。現在の事業等をお知らせする内容とは限りませんので、ご注意ください。

本日（6月7日）、千代田区は、2014年10月から開始したコミュニティサイクル事業実証実験「ちよくる」の利用分析データや2015年10月に実施した「利用者意向アンケート」の結果を分析し、区ホームページで公開しました。

この調査は、都心部における「コミュニティサイクル事業」の本格展開に向けて、安定的な事業スキームを構築する基礎資料を得ることを目的に実施されたもので、実証実験を開始した2014年10月1日から2015年10月末日までの13カ月間に蓄積した「移動状況」と利用者アンケートで把握した「利用者意向」を合わせて分析しています。

今回の調査・分析結果を活用し、本格実施に向けて、実施体制の検討などの具体的な調整を進めます。

公開ページ

千代田区ホームページ
「千代田区コミュニティサイクル事業実証実験に係る効果検証・調査報告書」

調査結果の概要

1.利用者意向調査（アンケート）

（ちよくる会員1500人を無作為抽出、有効回答数583票、回収率38.9%）
調査項目：利用目的と理由、実証実験の評価、満足度、本格導入への意向、ポート分布と設置ニーズ、他区との相互乗り入れ意向など

調査結果の例

(4) 実証実験の評価

1) 全体評価

- 実証実験の評価としては、「満足」「やや満足」が併せて80%以上を占めており、全般的に評価は高いと考えられる。

表 3-17 全体評価

	全数	会員種別		
		月額会員	一回会員	法人会員
1. 満足	225	58	159	8
2. やや満足	268	70	187	11
3. どちらでもない	36	9	27	0
4. やや不満	34	2	31	1
5. 不満	6	1	5	0

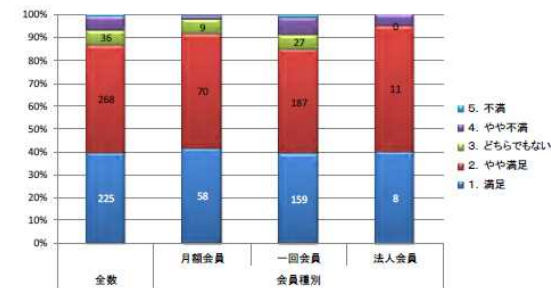


図 3-15 全体評価

1. コミュニティサイクルの取組動向

2. 事業の整備効果

3. 契約方法・契約更新に関する取り組み

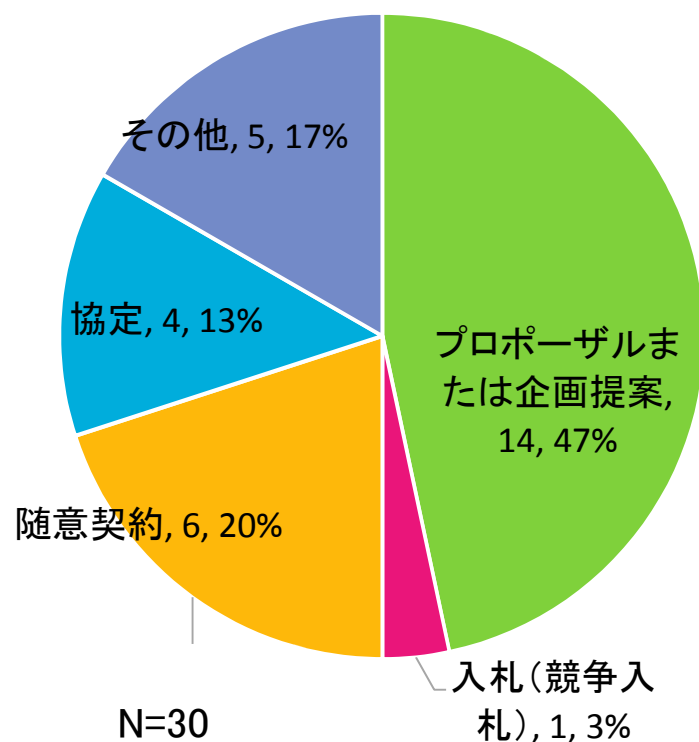
4. 新たなシステムの動向

3. 契約方法・契約更新に関する取り組み

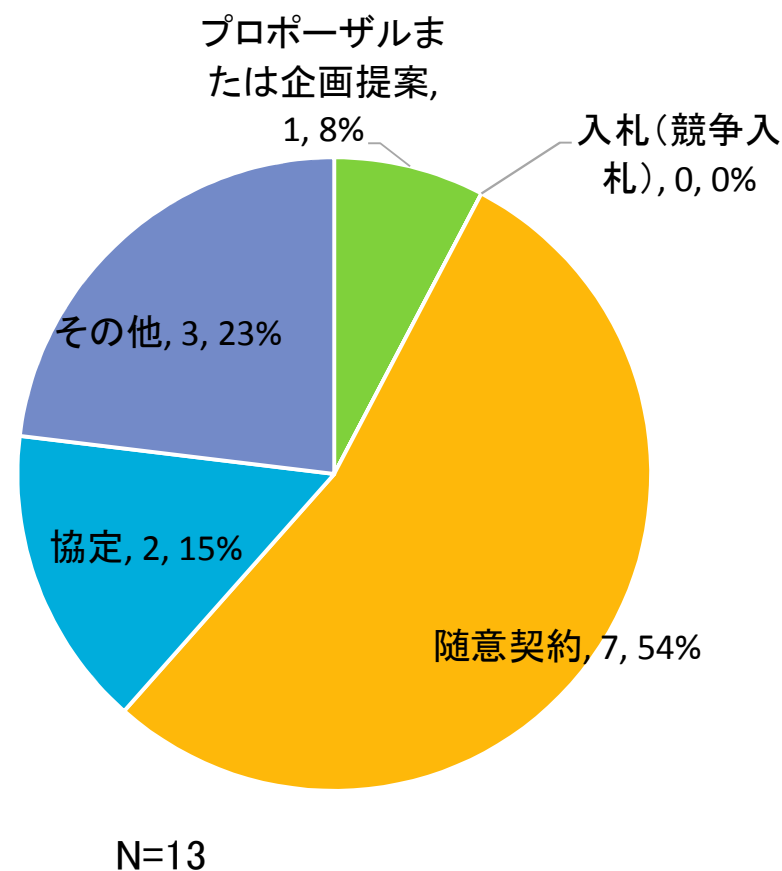
①契約・協定等の設定

- 当初開始時の運営者の選定方法はプロポーザルが約5割と最も多い。
- 一方、契約更新時における運営者の選定方法は随意契約が約5割と最も多い。

【当初開始時の契約・協定等に関する
運営者の選定方法】



【更新時の契約・協定等に関する
運営者の選定方法】

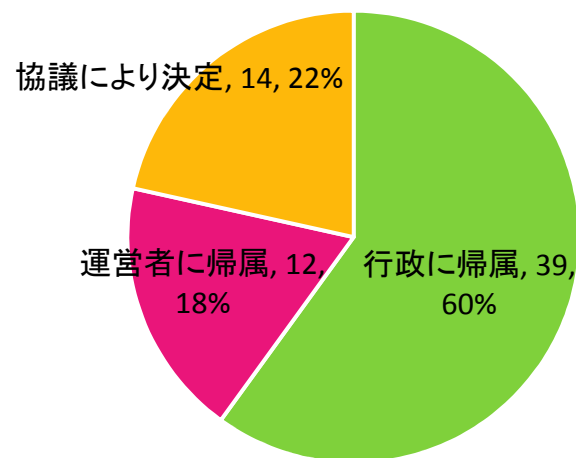


3. 契約方法・契約更新に関する取り組み

②契約・協定等に関する財産の帰属

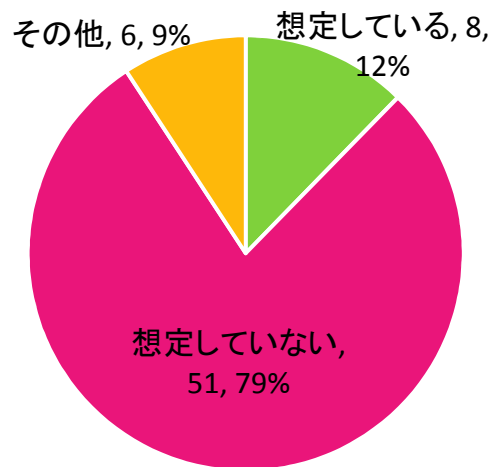
- 財産の帰属は行政にあると回答した都市が約6割と最も多い。
- 契約・協定等の更新時に自転車等の入れ替えを想定している都市が8都市あり、そのうち、完全に営業を休止させると回答した都市は1都市であり、その他の7都市は営業に大きな影響が出ないように入れ替えを実施すると回答。

【財産の帰属】



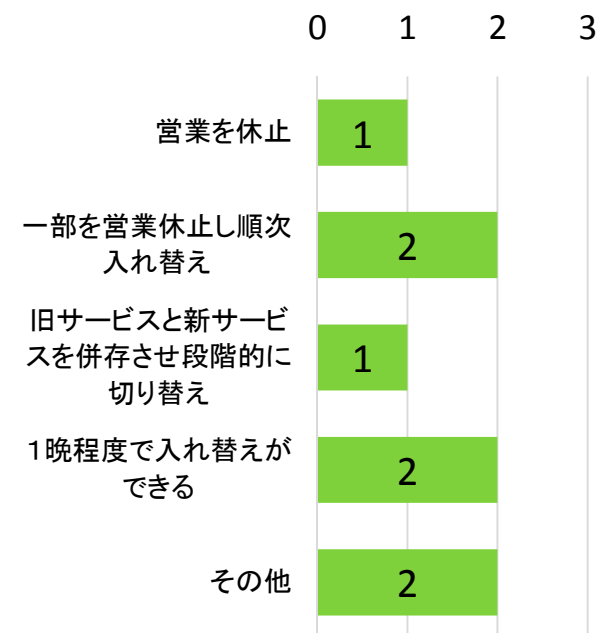
N=65

【更新時における自転車やポートシステムの入れ替えの想定】



N=65

【入れ替え期間中のコミュニティサイクル事業の運営】



N=8

【参考】契約更新に関する海外事例

パリ市(2017年12月)の事例

- パリ市では2007年より「Velib' (ヴェリブ)」のサービスを開始。
- 「Velib'」は「JCDecaux社」とパリ市の契約(10年の契約期間)により事業が進められていたが、契約満了に伴い、2017年春に契約更新入札を行ったが結果として「Smovengoコンソーシアム」が落札した。
- システムが異なるため機器の入れ替えを行いながら2018年1月より一部のポートでSmovengoコンソーシアムが事業を開始している。
- しかし、2018年4月までにすべてのポート機器を入れ替えるとする契約の達成に対し、疑問を呈す報道もなされている。



2017年12月までのVelib'
(JCDecaux社)



2018年1月からのVelib'
(Smovengoコンソーシアム)

1. コミュニティサイクルの取組動向

2. 事業の整備効果

3. 契約方法・契約更新に関する取り組み

4. 新たなシステムの動向

4. 新たなシステムの動向

- ▶ 2016年頃より、中国国内を中心にポート（ステーション）を置かず街中に配置された自転車を自由に使うタイプの「フリーフロート型バイクシェアリング」が急速に普及。
- ▶ 2017年頃からは米国・シンガポール・オランダなど各国の企業も参入し、世界各地に広がっている。

Mobike(中国)



ofo(中国)



Frick bike(オランダ)



obike(シンガポール)



Vbike(アメリカ)



4. 新たなシステムの動向

- ▶ ユーザーのスマートフォンで貸出返却管理を行うシステム。
- ▶ 自転車の鍵管理は、ユーザーのスマートフォンとBluetoothで自転車と接続して実施する。

シンガポールObike社のシステム

アプリをダウンロードし、アプリ上で貸出返却。自転車のQRコードを読み取り、貸し出し返却処理を行う。
どこかで会員になれば世界中で使用できるシステム。

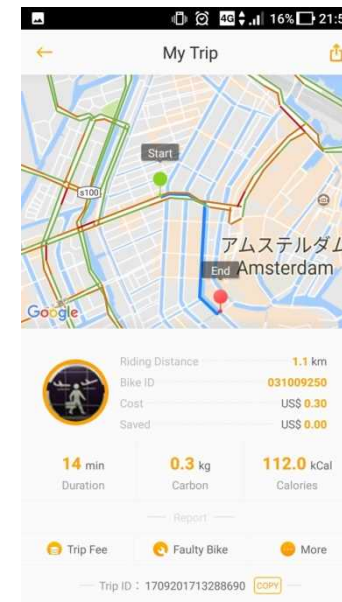
自転車のQRコード



マップで自転車を検索



台湾とオランダで同じIDで貸し出し返却可能



4. 新たなシステムの動向

- ▶ 2017年後半から、中国国内で無秩序に広がったこれらのサービスに対し、放置自転車や投棄の問題が生じていることから一部都市（北京・上海・成都等）で規制が導入されている。
- ▶ 中国国外でもシンガポールで規制を導入している。

中国のバイクシェアリングの状況



4. 新たなシステムの動向

- ▶ 日本国内でも多くの企業、積極的に参入を表明している。
- ▶ すでに国内の一部自治体には国内外の企業より打診等がされている。
- ▶ 2017年夏には札幌市でMobike（中国）が事業を開始。そのほかの企業も新規参入がみられる。

2017.8.9	(株)OFO JAPAN2017.9以降にサービス開始を目指すことを表明
2017.8.23	モバイク・ジャパン(株)札幌市でサービス開始
2017.11.21	(株)セブン-イレブン・ジャパンとOpenstreet(株)が協業でさいたま市でサービスを開始。
2017.12.20	LINEがモバイク・ジャパンと資本業務締結を行い、参入を発表。
2018.1.17	オーシャンブルースマートのPIPPAが板橋区でサービス開始
2018.2.27	(株)メルカリと(株)ソウゾウによる「メルチャリ」が福岡でサービス開始



札幌市でサービスを開始したMobike

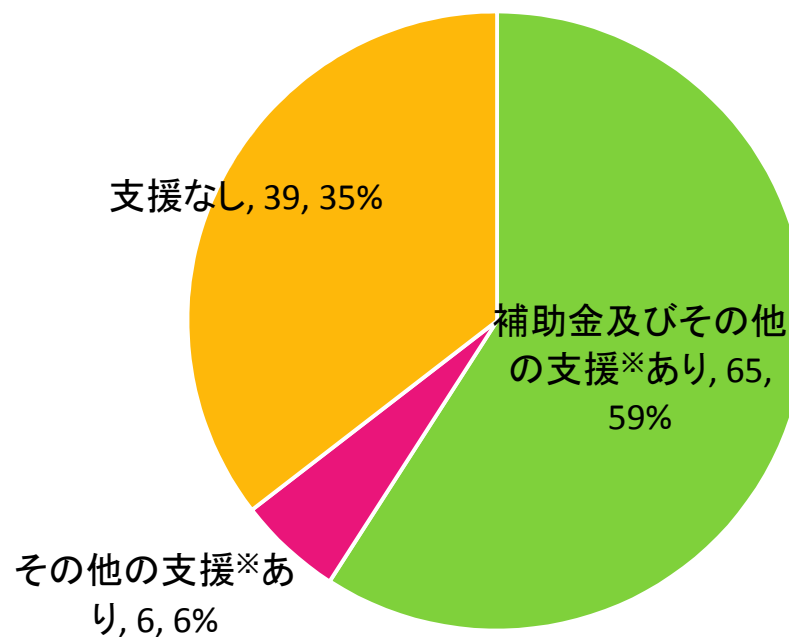


板橋区でサービスを開始したPIPPA

5. 完全民営事業の事例

- 行政からの補助金等の支援がある都市は全体の約6割。
- 補助金以外の行政支援を受けている都市は全体の1割以下。
- 一方で、行政の補助金や関与がなく完全に民間のみで設置や運営を実施しているような事例もある。

【行政支援の有無】



N=110

※その他の支援: ポート用地の提供・広報及び広告等